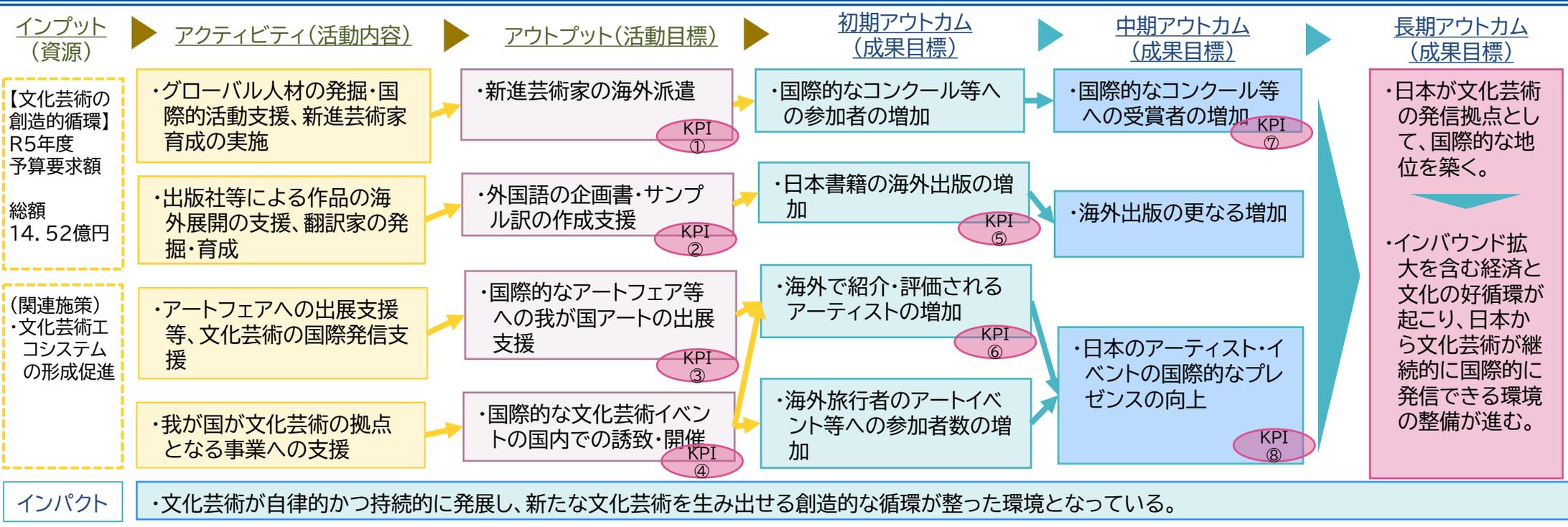


「文化芸術の創造的循環:文化芸術のグローバル展開の推進」ロジックモデル (R5年度要求・要望額:1,452百万円)

現状	我が国の文化芸術が持続的に国内で育ち、国際的な発信を通じて、国際的な評価を得るような環境が整っておらず、国際競争力が相対的に低い状況が続いている。
課題	文化芸術に従事するアーティストなどの関係者や、文化芸術を担う組織が、最大限にその力を発揮できるような環境を整備し、より良い環境で創造的な活動を行え、それが国際的な文脈に繋がり、国際的な評価も生み出すような循環ができておらず、個々人/組織の努力に委ねられていることが課題。文化審議会文化経済部会では、文化芸術の自律性・持続性を向上させるためには、その循環を作り出す文化芸術のエコシステムの形成が各分野で必要不可欠であるという認識。
本事業の目的	文化芸術各分野におけるエコシステムの形成の一環として、国際的な文脈で文化芸術の価値の拡大を戦略的に行うことにより、我が国文化芸術の持続的な発展を自律的に構築していくための体制を整備し、我が国の国際的なプレゼンスの向上及び文化芸術拠点化によるインバウンド拡大を目指す。

(現状・課題を示すデータ)

- ・アートバーゼルにおける日本のギャラリーの出展数3/約300 (R4)
- ・Artreview誌におけるアート界に影響力のあるPower100ランキング 日本人のランクイン:1名 (R4)



測定指標と目標値

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|---|
| KPI ① | ・新進芸術家派遣件数 (R5:35件程度) | KPI ⑤ | ・支援対象作品の12%を海外出版 (R6前後目標) |
| KPI ② | ・企画書・サンプル訳の作成件数 (R5:150件程度) | KPI ⑥ | ・国際的なアートフェアにおける日本のギャラリーの占める割合 |
| KPI ③ | ・アートフェア等出展支援 (R5:37件) | KPI ⑦ | ・国際的なコンクール等における日本人の受賞者数 |
| KPI ④ | ・国際的なアートフェアの開催件数 | KPI ⑧ | ・Artfactsのアーティストランキングにおいてトップ100にランクインする日本出身者の割合 |